

か説清 ら 末 78 小

2005.7.1

『迦因小伝』に関する魯迅の誤解・上
 ……樽本照雄 1

『大共和日報附張』スクラップ……杜 筆恩10
 百年是非，如何評説？ 3 ……歐陽縈雪15
 韓國所見清末民國通俗小説書目(初稿)
 ……張 元卿21

晩清小説作者掃描(叁) ……武 禧27
 漢訳アラビアン・ナイト(12) ……樽本照雄30
 清末小説から15,29,33 現在、樽本照雄著『清
 末小説研究論』(清末小説研究資料叢書9)を出版
 準備中です。本年10月の発行をめざしています。
 『清末小説』第28号は、例年通りの発行です

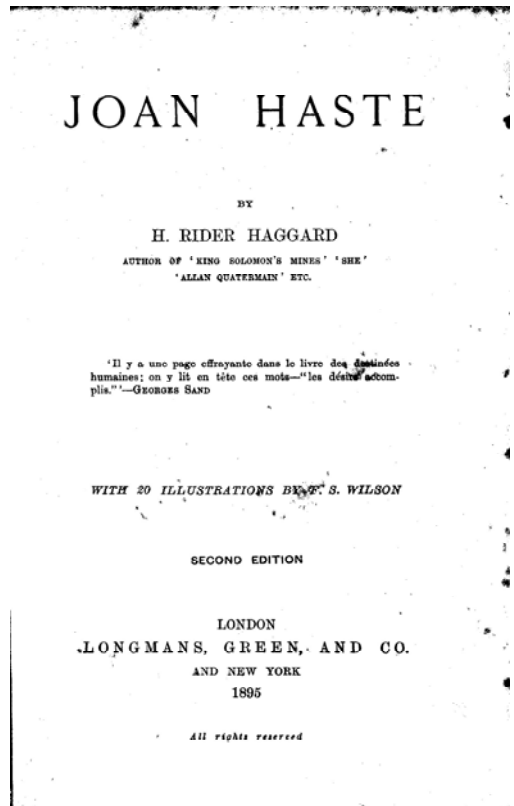
清末小説研究会 日本〒520-0806 滋賀県大津市打出浜 8 番4-202 樽本照雄方

『迦因小伝』に関する魯迅の誤解 漢訳ハガード小考 2 上

樽本照雄

ハガード著『ジョーン・ヘイスト Joan Haste』(1895)の漢訳は、2種類ある。

はじめに発行されたのは、包天笑らの部分訳『迦因小伝』だ。のち、林紓らによる全訳『迦茵小伝』が出た。「因」と「茵」の1字違いでまぎらわしい。ただし、その1字を区別すればどちらの漢訳



H.R.Haggard "Joan Haste" 1895

が特定できる。

この『迦茵小伝』に言及して魯迅が間違った説明をしている。しかし、『魯迅全集』の注釈には、彼の誤解であることを指摘しているものがない。そうかといって、気づいた研究者がいないわけではない。魯迅の誤りだとする文章が、過去においてすでに書かれている。だが、この問題提起に対して、ある人は否定する解説をわざわざ公表した。やはり魯迅が正しい、と主張するのだ。

本稿は、『迦茵小伝』に関する魯迅の誤解問題に決着をつけるものである。

魯迅が行なった説明から、まず、紹介しよう。

1 魯迅の説明

魯迅は、『迦茵小伝』をとりだして特別に論じているわけではない。例のひとつとしてあげているだけだ。ただ、ハガード著『ジョーン・ヘイスト』の漢訳が、中国でいかに広く読まれていたのかを知る手がかりになる。

問題の部分を翻訳して下に示す。

魯迅「上海文藝之一瞥」『二心集』上海・合衆書店1932.10。影印本1991.6。

……しかし才子佳人の本で、当時を一時震撼させた小説がさらに一冊が出まして、それこそが英語から翻訳された『迦茵小伝』(H. R. Haggard: Joan Haste)です。ただし、上半分(原文: 上半本)しかなく、訳者のいうところによれば、もともとは古本の露店で入手して、とてもよいのだが、残

念ながら下冊(原文: 下冊)を捜し当てることができずどうしようもない、ということです。はたして、才子佳人の心を動かし、とても広く流行しました。後には林琴南氏までも動かし、全部を訳出して題名はそのままに『迦茵小伝』といいました。ところが、すぐさま前の翻訳者からひどく罵られまして、全部を訳してはならない、読者を不愉快にするというのです。そこでようやくわかったのは、前に半分しかなかったのは、実は原本が欠けていたのが原因ではなく、ジョーンが私生児を生むことが書いてあったため、訳者は故意に翻訳しなかったのです。実のところ、このようなそれほど長くもない本は、外国でも2冊にわけて出版することはありません(原文: 外国も不至於分印成兩本)。しかし、このことからして当時の中国における婚姻についての見解をも知ることができるのです。126-127頁

一見なんでもなような記述である。魯迅の間違いだの、説明は正しいだの、注釈がないの、と研究者の意見が異なってくるはずもない文章だと思われるかもしれない。

だが、私から見れば、確認する必要が生じる箇所がいくつもある。複数の疑問が出てくるその理由は、魯迅が記憶にもとづいて発言しているためだと考える。

『迦茵小伝』そのものを手元においてい

るわけではなさそうだ。記憶がアイマイなものしかたがない。だからこそ、魯迅の記述をめぐってのちの研究者が対立する。

出てくる疑問を箇条書きにしてみる。すでにわかっている事も確認が必要だと考えてあえて掲げる。

問題 1 : 最初の翻訳書は『迦茵小伝』と
いうのか？

問題 2 : その翻訳者は誰か？出版社と発行年は？

問題 3 : 翻訳は「上半分(原文:上半本)」
だけか？

問題 4 : 翻訳者は、「下冊(原文:下冊)」
がみつからないと説明しているのか？

問題 5 : 林紓(琴南)の翻訳書は『迦茵小伝』
というのか？

問題 6 : その出版社と発行年は？

問題 7 : 前の翻訳者が林紓をひどく罵った
というのは本当か？

問題 8 : ハガードの原作は、「それほど長く
もない本」というのは本当か？

それぞれの項目を確認して記録すれば、
自然と注釈になる。

事実を知っていれば簡単だが、知識がなければ注釈者が触れることもない箇所を最初に指摘しておこう。

冒頭で説明したように、漢訳には包天笑らの『迦茵小伝』と林紓らの『迦茵小伝』という前後して出版されたふたつがある。1字が違ふと翻訳の中身が異なっ

てくる。なにしろ前者は部分訳だし、後者は全訳なのだ。混同しては話にならない。

しかし、魯迅は、『迦茵小伝』と『迦茵小伝』の区別をしていない。最初の翻訳書名は、当然、『迦茵小伝』でなくてはならない。魯迅の誤解のひとつである。しかし、注釈者たちはこれについて沈黙を守ったままだ。一方、林紓らの翻訳は『迦茵小伝』でよい。

問題項目が上のように多数あることを知って、どのような注釈がほどこされているか見てみる。

2 注釈のかずかず

日本においては、魯迅の該文には増田渉の翻訳がある。これには、つぎのような注釈がつけられている。

増田渉訳『魯迅選集』第8巻 岩波書店1956.11.7/1966.9.16改訂版第2刷

補注190 下10 『迦茵小伝』

イギリスの小説家ハガード(1856~1925)の“Joan Haste”の前半部を蟠溪子という署名者が訳した。後に林琴南が同じ題名で全訳した。259頁

蟠溪子の名前を掲げている点が、新しい。楊紫麟のことだ(楊紫麟と包天笑の共訳だが、本稿では、「包天笑らの翻訳」と称する)。ただし、問題2の一部を明らかにしているにすぎない。その他の項目には手つかずだ。このことから、包天笑らの翻

訳書名が『迦茵小伝』であることに増田は気づいていないことがわかる。原著の「前半部」とするのも、原文のままだ。両者ともに、魯迅が書き誤っているなどとは思いつかなかったのだろう。

中国で出版された『魯迅全集』は、魯迅の記述をそのままに信用して同じような注釈をつけている。1957年の旧版と1981年版の注釈をかかげる。

『魯迅全集』第4巻 北京・人民文学出版社1957.7

注9 『迦茵小伝』、原著は英国ハガードの作品。該書は、最初、蟠溪子という署名の翻訳があり、原著の上巻(原文：上巻)だけだったが、当時、広く流行した。1913年、林琴南がハガードの文集中から、別人の口述により全文を訳出した。533頁

魯迅が書いているとおりに、原著「上巻」だけの翻訳だ、とくりかえす。

林紓の翻訳は、1913年発行の版本もあるにはある。しかし、ここは1905年の商務印書館本を掲げなければ正確な注釈にはならない。

全集1981年版の注釈もにたようなものだが、さすがに説明はすこし詳しくなっている。

『魯迅全集』第4巻 北京・人民文学出版社1981、1982北京第1次印刷

注12 『迦茵小伝』、英国ハガードの長編小説。該書は、最初、蟠溪子と

いう署名の翻訳があり、原著の上半分(原文：上半部)だけだった。1903年上海文明書局の出版で、当時、広く流行した。のち林琴南が魏易の口述によって全文を訳出し、1905年商務印書館が出版した。304頁

あいかわらず「原著の上半分だけだった」とくりかえす。

包天笑らの翻訳が1903年に文明書局から出ていること、林紓らの翻訳が1905年に商務印書館から発行されていることなどは、旧版にくらべて詳しくなっている箇所だ。

微妙に異なるのは、原著が「上巻」だったとしていたのを「上半分(原文：上半部)」に変更した点だろう。考えるに、魯迅が「外国でも2冊にわけて出版することはありません」と書いているのにもとづいているらしい。

どのみち、包天笑らの漢訳は前半部分だと理解していることに違いはない。くどいようだが、魯迅がそう書いているのだ。

新版では、「前の翻訳者からひどく罵られ」に注がほどこされているのが新しい。問題7に関係する。

注13 前の翻訳者からひどく罵られ当然、寅半生作「迦茵小伝の二訳本を読んで」(1906年、杭州出版の『遊戯世界』第11期に掲載)という一文を指す。その中でつぎのように言う。「蟠溪子はどれほどの躊躇と熟慮を

ある」304-305頁

讀迦因小傳兩譯本書後
 實半生
 吾向讀迦因小傳而深歎迦因之為人清潔娟好不染汚
 濁甘犧牲生命以成人之美實情界中之天仙也吾今讀
 迦因小傳而後知迦因之為人淫賤卑鄙不知廉恥棄人
 生義務而自殉所歡實情界中之惡賊也此非吾思想之
 矛盾也以所見譯本之不同故也蓋自有蟠溪子譯本而
 迦因之身價忽登九天亦自有林畏廬譯本而迦因之身
 價忽墜九淵
 何則情者怨之媒也怨者情之蠹也知有情而不知有怨

『遊戯世界』第11期

重ねたか、妊娠する箇所をジョーンのために隠したのだった。……ところが林畏廬という者が、ジョーンに何の恨みがあるのか知らないが、蟠溪子があらゆる方法をつくして取り纏いジョーンのために隠したことを、別に補ってその恥を暴露しようとするのである。……ああ！ジョーンはなんと幸せであろうか、蟠溪子が彼女のためにその短所を隠し、その長所を目立たせたので、迦因小伝を読む者はみなジョーンを気に入ったのだ。ジョーンはなんと不幸であろうか、林畏廬がその行ないを暴露しその恥をさらしたため、迦因小伝を読む者はみなジョーンを軽蔑したので

この注は、奇妙だ。文中の説明とその内容が異なっているように思える。

寅半生は読者のひとりとして、包天笑ら訳『迦因小伝』と林紓ら訳『迦茵小伝』の違いを述べているにすぎない*1。主人公ジョーンが私生児を生む箇所を包天笑らは削除した。林紓らの全訳では、原作通りになっている。その違いにより、中国の読者がいただいた印象が異なったことを言っている。しいていえば、寅半生が林紓訳を罵ったということではできても、前の翻訳者、すなわち楊紫麟と包天笑が、林紓を罵ったという内容ではない。

新版を日本語に翻訳した竹内実、吉田富夫訳『魯迅全集』6（学習研究社1985.4.25）には、原注の2項目（133頁）がそのままあるだけ。迦茵に「ジェーン」と違ったルビをふっているくらいで、訳注はほどこされていない。

竹内好訳『魯迅文集』第5巻（筑摩書房1978.1.30）でも「最初に前半部だけを中国訳したのは蟠溪子（楊紫麟）と天笑生（包公毅）」（351頁）と説明する。「前半部」をくりかえして気味が悪いくらいにほかの注釈と同一歩調をとる。

参考までに専門書も見ておく。飯塚朗、中野美代子訳の阿英『晚清小説史』（平凡社1979.2.23東洋文庫349）である。つけられた注を下に示す（371頁）。

『迦茵小伝』原題は *Joan Haste* で
 原作者は Sir Henry Rider Haggard

(一八五六～一九二五)。魏易との共訳で、光緒三十一年(一九〇五)商務印書館刊。ほかに蟠溪子(楊紫麟)天笑生(包公毅)共訳、光緒二十七年(一九〇一)勵学訳編本があるが未完。

包天笑らの訳本が『迦因小伝』であることにも、文明書局本にも言及しない。林紓らの『迦茵小伝』が全訳で包天笑らの漢訳が部分訳であるという基本的な事実も説明しない。専門書がこのありさまでは、ほかは推してしるべしか。

3 問題の所在

魯迅は、漢訳の『迦因小伝』について重大な間違いをおかしている。しかし、日本と中国の注釈者全員がその事実に気づいていない。本稿であつかう問題は、英文原書と包天笑らの『迦因小伝』に関する魯迅の説明なのだ。

上に列挙したなかから中心問題をくりかえす。

問題3：翻訳は「上半分(原文：上半本)」だけか？

問題4：翻訳者は、「下冊(原文：下冊)」がみつからないと説明しているのか？

魯迅の用語を見てみよう。原文の「上半本」と「下冊」あるいは「外国也不至於分印成兩本」という箇所である。

魯迅の理解では、こうだ。包天笑らは、英文原作が上下冊の2冊に分かれており、

上冊だけが入手できたといっている。しかし、包天笑らは、主人公が私生児を生む箇所を訳したくなかった。だから、原本は1冊本だったのにもかかわらず、わざと2分冊だと説明した。

包天笑らの『迦因小伝』は原書の上半分しか翻訳していない、と魯迅はいう。はたして、それは事実なのか。

4 異論の提出1

魯迅の誤りを指摘したのは、樽本照雄の「劉鉄雲と「老残遊記」」*2が最初である。樽本の文章は1974年に発表されているから、ずいぶんと時間をさかのぼる。劉鉄雲が『迦茵小伝』に興味をもっていたという劉大紳の証言がある(劉大紳は『迦因^マ小伝』と誤記する)。それに関して調査して得た結果だった。中国では「文化大革命」が進行中で、学術研究は中断していた。『ジョン・ヘイスト』の漢訳など問題にもなりはしない時期だ。あとで紹介するが、陳曦鍾の論文が公表されたのは1985年である。樽本の指摘は、それにさきだつこと10年以上も前のことだ。

注33 寅半生「読《迦因小伝》両訳本書後」阿英編『晚清小説叢鈔』小説戯曲研究巻285頁 なお魯迅は、「上海文藝之一瞥」で「迦茵小伝」にふれてはじめて訳された方は前半部しかなかったというが、後半部しかなかったのあやまり。93頁

魯迅の誤りだ、と樽本が指摘したのに

は、当然、根拠がある。注に引用している阿英編『晚清小説叢鈔』小説戯曲研究巻には蟠溪子の「引言」(1901)が収録されており、それが論拠のひとつだ。

路傍の露店で破損した洋書数種を1シリングで購入した。帰宅してそれらを見ると、中に『ジョーン・ヘイスト(原文:迦因喜司托来)』1種がある。訳して『迦因小伝』は、西欧の小説家のもので、惜しいことに上冊(原文:上帙)がない。欧米の都市に手紙を出して完本で補おうとしたが、ついに得ることができなかった。282頁

ほかならぬ訳者のひとりで原本を入手した本人の証言である。「破損した洋書」「惜しいことに上冊がない」というのだから後半分を漢訳したことになる。ただ、「上帙」という表現が、原著が上下2冊に分かれていたという誤解を生むことになったか、と思わないでもない。

くわえて、当時、すでに包天笑の詳細な回想録が香港から出版されていた。私は、それを読んでいたから『迦因小伝』は原本の後半分を翻訳したものに違いないと考えた。

5 包天笑の回想

翻訳をした当事者の回想である。貴重な証言だから長くなるが紹介したい。

包天笑『釧影樓回憶録』香港・大華

出版社1971.6

紫麟は、英語を勉強して研究に役立てるため、よく北京路の古本屋へ行って洋書の古本を購入して読んでいた。当時、上海には洋書を購入できる場所が少なく、わずかに浦灘の別発洋行1軒があるだけで、本はたいて多くはないし値段も高かった。彼は古道具屋で1冊の外国小説を買って読むとこれがおもしろい。彼がいうには、「すこしばかり『茶花女遺事』」にているが、椿姫はフランス小説でこれは英国小説だ。ただ下半分しかないの得上半分を捜しているのだが、別発洋行にいったらずねてもみたが、どこにもない」と。

紫麟は、包天笑の親しい友人楊紫麟のことだ。当時、上海に住んで学校に通っていた。『茶花女遺事』は、林紘らの翻訳『巴黎茶花女遺事』を指しているのはいうまでもない。上海には外国人も多く居住していたはずだが、洋書が少なく入手するのがむづかしいという証言は意外な気がする。

注目してほしい。包天笑の記憶では、楊紫麟が入手した原著『ジョーン・ヘイスト』は下半分である。上下2冊であったとは書いていない。

中国公園(もっぱら中国人のために建築したので、習慣として中国公園と称していた)で、楊紫麟はいつもこの古本の英語小説を持っていて、私に読

み聞かせたものだった。「君が翻訳したらどうだい。上半分がないとって、下半分があるのだからよしとしようじゃないか」と私がいうと、彼は「ぼくの国語はうまくないから、ふたりで共訳するんだったらな、ぼくが英語を翻訳して君がそれを漢語で書くというのはどうだい」という。「それもいいな、やってみるか」ということでふたりは公園で1本の鉛筆と1枚の紙で、彼が口述して私が書く、というぐあいにすぐさま1千字あまりを翻訳した。ふたりは興味をおぼえて、明日もまた来ることを約束したのだ。

ここでも原書は下半分であることがくりかえされている。

楊紫麟と包天笑の共訳作業は、私の知る限りほかに3種類の小説がある。示せば以下のとおり。

(英) 麦度克著『身毒叛乱記』2冊
小説林社 光緒丙午(1906)

『律師態度之華盛頓』『小説時報』第1期 宣統元年九月初一日(1909.10.14)

(英) 哈葛徳著『大俠錦帔客伝』26章 『小説時報』第2-3期 宣統元年十月初一日 - 十二月初一日(1909.11.13-1910.1.11)

楊紫麟が口述して包天笑が筆記するやり方は、林紓が採用した方法と変わりはない。分業による翻訳ということだ。

翌日は土曜日だった。午後、私たちはふたたび公園で、2千字ばかりを翻訳した。さらにつぎの日曜日にも、公園で2千字あまりを翻訳し、この3日という時間で5千字あまりになったのである。きわめてあわただしい原稿にすぎず、修飾をくわえなければならなかったが、しかし、私たちは満足だった。私はしょっちゅう上海に行くというわけにもいかず、多くて4、5日ですぐに蘇州にもどった。だが、私たちはこの小説を翻訳しおわるつもりだったのだ。「君はまずもどってくれ。あとはぼくが勝手に書いて君に送るから、意味が通っているかどうかにかかわらず書き直してくればいいよ」とのちに楊紫麟がいった。

包天笑は、もともと蘇州に住んでいた。上海で楊紫麟に会った時には彼の口述で包天笑の筆記という方法を実行することができた。地理的に離れていてそれが不可能ならば、楊紫麟が下書きを作ったということだ。口述が下書きに変化しただけで、翻訳のふたり分業体制には変更はない。

彼は余暇に翻訳したものを私に送ってきて、私はそれに修飾をほどこした。蘇州にもどってから、励学社の仲間にそれを見せると彼らは称賛して『励学訳編』の発行を準備中だから、それを『励学訳編』に掲載す

るように要求したのだった。この小説は題名を『迦因小伝』という。私が小説に従事した最初の本である。当時、外国小説を翻訳する人は少なかったため、逆に人々にとても愛読された。後に林琴南が本書の全部を探しあて、商務印書館から出版し題名を『迦茵小伝』といった。私たちが訳した書名の「迦因」という2字を「迦茵」に改めただけである。また、私たちに特に手紙をよこしてよろしくと伝えてきた。まるで挨拶をしたようであったが、それは私たちの『迦因小伝』がすでに上海の文明書局から単行本で出版されていたからだ。当時、私たちは原著の著者が誰であるのか知らなかった。林氏からのたよりで、原著者はハガードであり全集が出版されたことがあるということを知ったのだ。171-172頁

包天笑らが英文原作の著者をハガードだとは知らなかった点は、興味深い。知っているのにわざと隠しているようには読めない。原作は、本当に破損して下半分しかなかったように思える。なぜなら、原作の下半分しかなければ、原著者の名前を不明とせざるをえないだろう。著者名は、普通、英文原著の扉に明記される。古道具屋で入手したくらいの破れ古本だとすれば、表紙がついていた可能性も少ない。

原作の下半分にジョーンが私生児を生む箇所があったとして、包天笑らがそれ

を気に入らなければ削除するだけのことだ。

包天笑の証言は、なにからなにまで手元には原本の下半分だけが存在していたことを指し示す。話の内容に矛盾は、ない。

包天笑の証言ついでにいえば、魯迅の説明によると、包天笑らは林紓を罵ったという。包天笑の回想には、林紓から手紙がきてあいさつの意味らしいとはある。しかし、それ以上の反応はここには見えない。林紓らの漢訳が気に入らなければ、なんらかの言及があってもいいと思うのだが、それが無い。

「(包天笑らの『迦因小伝』は、ハガード原著の)後半部のみを訳出(したものだ)」。

『清末民初小説目録』(1988)には、こう注釈を加えている。該目録は、新編(1997)、新編増補(2002)と冒頭にうたい増補訂正しているが、いずれも同じ注を掲げる。だが、ここに注目する人はいなかった。

樽本の最初の言及から約10年後、同趣旨の意見を提出した研究者が中国にいる。



【注】

- 1) 寅半生「読迦因小伝両訳本書後」『遊戯世界』第11期 刊年不記(丙午夏季1906)、阿英編『晚清文学叢鈔』小説戯曲研究巻 北京・中華書局1960.3上海第1次印刷。台湾・文豊出版公司(1989.4)影印本。薛綏之、張俊才編『林紓研究資料』福州・福建人民出版社1983.6
- 2) 『清末小説閑談』法律文化社1983.9.20。謝碧霞訳《劉鉄雲与<老残遊記>》林明德編『晚清小説研究』台湾・聯経出版事業公司1988.3

『大共和日報附張』スクラップ

杜 筆 恩

書店の棚に置かれていた紙の束を手にとった。茶色に焼けたそれは左上に「大共和... (破損)...」と書かれ、欄外に「中華民國元年」の文字が見えた。ページを一枚めくると、やはり欄外にある「大共和日報 星期五」が目に入ってきた。これは一体何?と思いつつ、ページをめくっていくと、「小説」そして折り目に「大共和日報附張」と日付が続いている。どうも新聞連載の小説部分だけを切り抜いて集め、横に穴を開け、糸でくくった線装本もどきのようだ。単なるスクラップなのだが、「民國元年」の文字が気になって、つい購入してしまった。

90年以上前の新聞なので、破損に注意しながら見ると、民国元年というのは表紙(一番上の切り抜き)だけで、他は民国2(1913)年9月3日から30日(不全)、12月16日から民国3(1914)年1月6日(不全)にかけての切り抜きだった。この『大共和日報』は、中華民國初頭に上海で発行されていたらしい。しかし、「附

張」がどのように「附」されていたのかは不明である。

とりあえず本稿では、非常に部分的ではあるけれども、この「附張」掲載の小説をまとめ、散逸しやすい新聞がスクラップとして偶然生き残っていた事実を記録しておくことにする。

民国2(1913)年

【9月2日以前 無】

9月3日

小説一 哀情小説 靈鷲夢 著者景緘 第十一章・続

小説二 割記小説 殘夢齋隨筆 寄生 「俞長城」「別字秀才」

小説三 情天恨 第六章「深情似海」 (以後、「小説-」は省略)

9月4日

哀情小説 靈鷲夢 著者景緘 第十一章・続
滑稽小説 二次革命(一名改良強盜現形記) 悔悔

9月5日

哀情小説 靈鷲夢 著者景緘 第十二章
割記小説 殘夢齋隨筆 寄生 「程襟仁」
滑稽小説 二次革命(一名改良強盜現形記) 悔悔

9月6日

情天恨 第六章「深情似海」・続
時事小説 夜叉殺賊記 寄

9月7日

哀情小説 靈鷲夢 著者景緘 第十二章・続
情天恨 第六章「深情似海」・続
時事小説 打電話(全用京語) 國

9月8日

哀情小説 靈鷲夢 著者景緘 第十二章・続
割記小説 殘夢齋隨筆 寄生 「程襟仁」・続
時事小説 打電話(全用京語) 國

9月9日

情天恨 第六章「深情似海」・続
時事小説 夜叉殺賊記 寄

姐醒未宜且告以汝老主人將至盡少
開其醒眼也 (未完)

小説二



小説記 殘夢齋隨筆 (寄生)

俞長城 (續)

俞又於某郡試十題爲挾泰山以超北
海恨試卷語多堆砌欲取空靈跳脫者
拔之得一卷云凡山可挾而泰山不可
挾凡海可超而北海不可超亟賞之列
諸冠軍及榜發後重檢其卷啞然曰何
山可拔何海可超吾目得無盲乎因亟
爲竄易以避磨劫焉

別字秀才

前清科舉時代以制藝取士論行數墨
鑽研靡至每試畢輒上其藁於父兄曰

佳曰必售則欣然喜曰劣曰難售則戚
然憂風氣使然如狂如病雖達者弗能
自免也某年泰州院試題爲人知之亦
驚竄人不知亦驚竄某童子應試出其
父趨問何題童子讀驚竄爲躑躅父怒
幾將挾之曰如是尙思入泮耶紛豈不
已直抵寓所其師索文觀之喜曰字雖
別讀題未誤解秀才不因一躑而去也
於是復相歡笑及榜發果在案人遂呼
之是躑躅秀才



小説三

情天恨

(續)

第六章 深情似海

世事之遇合至無常求前反卻似離反

即方錢生之初至滬也以爲彼美見召
必與其夫決裂在即故求已爲之臂助
好事之成當不遠矣詎三日來女於飲
食閑話外一無所語錢乃大疑豈女已
忘之耶否否此何事而容有忘之一字
然則有待耶余今現在此復何所待然
則女其有悔禍之心歟彼少年夫婦偶
然相迕亦是常情今經夫已氏謝過遂
復歡好如初故對余又未便明言乃以
此謙恭冷淡之酬醉俾余自悟乎噫此
說近是矣余復癡心戀戀胡爲者是日
女來生遂以欲歸告
女輒然曰妾固知君之不之耐矣雖然
尙有要言相商盍少留兩日生日諾遂
復留女於二日中來廬歡談如前亦絕

陰歷八月初三日

- 時事小説 打電話(全用京語) 國 9月19日
 9月10日 哀情小説 靈鷄夢 著者景緘 第十三章・続
 情天恨 第七章「至死不忘」 滑稽小説 二次革命(一名改良強盜現形記)
 割記小説 殘夢齋隨筆 寄生 「程襟仁」・続 悔悔
 時事小説 夜叉殺賊記 寄 殘夢齋隨筆 寄生 「彭剛直軼事一」・続
 9月11日 9月20日
 情天恨 第七章「至死不忘」 名家小説 十萬元 林琴南
 時事小説 夜叉殺賊記 寄 殘夢齋隨筆 寄生 「彭剛直軼事一」・続
 時事小説 打電話(全用京語) 國 9月21日
 9月12日 名家小説 十萬元 林琴南
 情天恨 第七章「至死不忘」 時事小説 打電話(全用京語) 國
 時事小説 夜叉殺賊記 寄 末尾「完」
 滑稽小説 二次革命(一名改良強盜現形記) 9月22日
 悔悔 名家小説 十萬元 林琴南
 9月13日 9月23日
 割記小説 殘夢齋隨筆 寄生 「張玉書軼事」 名家小説 十萬元 林琴南
 滑稽小説 二次革命(一名改良強盜現形記) 哀情小説 靈鷄夢 著者景緘 第十四章
 悔悔 9月24日
 時事小説 打電話(全用京語) 國 名家小説 十萬元 林琴南
 9月14日 殘夢齋隨筆 寄生 「彭剛直軼事二」
 情天恨 第八章「郵書往還」 【9月25日分 無】
 滑稽小説 二次革命(一名改良強盜現形記) 9月26日
 悔悔 滑稽小説 二次革命(一名改良強盜現形記)
 時事小説 打電話(全用京語) 國 悔悔
 9月15日 短篇小説 船盜 鸞
 情天恨 第九章「海上重來伊人已去」 9月27日
 哀情小説 靈鷄夢 著者景緘 第十三章・続 滑稽小説 二次革命(一名改良強盜現形記)
 時事小説 夜叉殺賊記 寄 悔悔 末尾「完」
 9月16日 短篇小説 船盜 鸞 末尾「完」
 情天恨 第九章「海上重來伊人已去」・続 殘夢齋隨筆 寄生 「彭剛直軼事二」・続
 殘夢齋隨筆 寄生 「彭剛直軼事一」 9月28日
 時事小説 打電話(全用京語) 國 哀情小説 雙鶻血 著者涵秋
 9月17日 首「續四月二十五日稿」
 情天恨 第九章「海上重來伊人已去」・続 哀情小説 靈鷄夢 著者景緘 第十四章・続
 哀情小説 靈鷄夢 著者景緘 第十三章・続 名家小説 十萬元 林琴南
 殘夢齋隨筆 寄生 「彭剛直軼事一」・続 【9月29日分 無】
 9月18日 9月30日
 情天恨 第九章「海上重來伊人已去」・続 哀情小説 雙鶻血 著者涵秋
 末尾「完」 哀情小説 靈鷄夢 著者景緘 第十五章
 滑稽小説 二次革命(一名改良強盜現形記) 名家小説 十萬元 林琴南
 悔悔
 時事小説 打電話(全用京語) 國 【10月1日 - 12月15日分 無】

12月16日
 哀情小説 靈鷲夢 著者景絨 第二十五章
 札記小説 殘夢齋隨筆 寄生 「金巫」・続
 札記小説 松牕漫筆 靜厂
 「上等食」「自別於禽獸」「祝由科」
 【12月17日 - 12月19日分 無】
 12月20日
 哀情小説 雙鶻血 著者涵秋
 哀情小説 靈鷲夢 著者景絨 第二十六章
 札記小説 殘夢齋隨筆 寄生 「張千斤」・続
 12月21日
 哀情小説 雙鶻血 著者涵秋
 哀情小説 靈鷲夢 著者景絨 第二十六章・
 続
 札記小説 殘夢齋隨筆 寄生 「張千斤」・続
 12月22日
 哀情小説 靈鷲夢 著者景絨 第二十六章・
 続、第二十七章
 札記小説 殘夢齋隨筆 寄生 「張千斤」・続
 札記小説 松牕漫筆 靜厂
 「浣花醉歸圖」「後山不背南豐」「屯泰不
 同」「崇徽公主手痕」
 12月23日
 哀情小説 雙鶻血 著者涵秋
 哀情小説 靈鷲夢 著者景絨 第二十七章・
 続
 札記小説 殘夢齋隨筆 寄生 「辦夢」
 12月24日
 哀情小説 雙鶻血 著者涵秋
 札記小説 殘夢齋隨筆 寄生 「辦夢」・続
 12月25日
 哀情小説 雙鶻血 著者涵秋
 札記小説 松牕漫筆 靜厂 「燕子樓」「金
 明池」
 12月26日
 短篇實事 妬海憐紅記 亦士
 札記小説 松牕漫筆 靜厂 「竹米」「黃袱
 識語」
 12月27日
 短篇實事 妬海憐紅記 亦士
 札記小説 松牕漫筆 靜厂 「明皇遇貴
 妃」「吏生三十六子」

12月28日
 短篇實事 妬海憐紅記 亦士
 札記小説 松牕漫筆 靜厂
 「奸僧撚指」「籠燈傳送」「記里鼓」
 12月29日
 短篇實事 妬海憐紅記 亦士
 哀情小説 自由毒 著者景絨 第三章
 12月30日
 短篇實事 妬海憐紅記 亦士
 哀情小説 自由毒 著者景絨 第三章・続
 札記小説 松牕漫筆 靜厂
 「毀碑」「宋江畢四」「荔支語識」
 12月31日
 哀情小説 自由毒 著者景絨 第三章・続、
 第四章
 札記小説 松牕漫筆 靜厂
 「多景樓」「沈園感舊」
 民国3(1914)年
 1月1日
 哀情小説 靈鷲夢 著者景絨 第二十八章
 哀情小説 自由毒 著者景絨 第四章・続
 【1月2日分 無】
 1月3日
 哀情小説 靈鷲夢 著者景絨 第二十八章
 ・続
 【1月4日分 無】
 1月5日
 哀情小説 靈鷲夢 著者景絨 第二十九章
 ・続
 1月6日
 社會小説 廣陵潮 甘泉 李涵秋著 第一回
 【1月7日以降 無】
 以上である。上記箇条書きを作品名の拼音順に並べ、樽本照雄編『新編増補清末民初小説目録』(齊魯書社2002.4)風に記述してみる。
 C---
 殘夢齋隨筆

寄生
『大共和日報附張』連載期間不明 1913.9.3,12.24等確認
「割記小説」「札記小説」を冠することもある。
『新編増補清末民初小説目録』(以下、単に『目録』とする)には収められていない。

c---
船盗(短篇小説)
鷺
『大共和日報附張』1913.9.26-27
『目録』には収められていない。

d---
打電話(時事小説)
國
『大共和日報附張』1913.9.7-21(毎日掲載されているわけではない)
題名下に「(全用京語)」或は「(全用京話)」とある。
『目録』には収められていない。

d---
妬海憐紅記(短篇實事)
亦士
『大共和日報附張』1913.12.26-30
『目録』には収められていない。

e---
二次革命(一名改良強盜現形記)(滑稽小説)
悔悔
『大共和日報附張』連載開始不明-1913.9.27
『目録』g0005と作者が一致するので、同じ作品と思われる。

g---
廣陵潮(社會小説)
甘泉李涵秋
『大共和日報附張』1914.1.6-連載終了不明
『目録』g0579と同じものと思われ、連載開始日と「社會小説」を冠していることが補える。

l---
靈鷲夢(哀情小説)
景緘
『大共和日報附張』連載期間不明 1913.9.3第11章、1914.1.5第29章等確認

『目録』10769,0770のもとと思われる。

q---
情天恨 9章
『大共和日報附張』連載開始不明-1913.9.18
『目録』q0769 - 0771と作品名は一致するが、章回が異なるので、同じ作品かどうかは不明。

s---*
十萬元(名家小説)
林琴南
『大共和日報附張』1913.9.20-連載終了不明
『目録』s0771*と同じものと思われ、「名家小説」を冠していることが補える。

s---
雙鷓血(哀情小説)
涵秋
『大共和日報附張』連載期間不明(1913.9.28掲載分に「續四月二十五日稿」とあるので、連載開始は4.25以前と思われる) 1913.9.28,12.25等確認
『目録』には収められていない。

s---
松牕漫筆(札記小説)
靜厂
『大共和日報附張』連載期間不明 1913.12.16,12.31等確認
『目録』には収められていない。

y---
夜叉殺賊記(時事小説)
寄
『大共和日報附張』1913.9.6-15(毎日掲載されているわけではない)
作品名は「叉」とする。文中は「乂」としたり、「又」としたりする。
『目録』には収められていない。

z---
自由毒(哀情小説)
景緘
『大共和日報附張』連載期間不明 1913.12.29第3章、1914.1.1第4章等確認
『目録』z0857 - 0859と作品名は一致するが、作者が異なるので、同じ作品かどうかは不明。

連載期間不明の作品が多い。また、一部の作品については、このスクラップの期間のみで、連載が始まり、終わっていると判断し、そのように記述した。しかし、実は連載の途中だったということがあるかもしれない。『大共和日報』の揃いを調査できる方、御指教をお願いします。 罎

劉徳隆氏の編集発行する『近代文学研究・拾稗』が第17期(2005.4増刊)で休刊となった。研究と研究者、あるいは学会に関する短信を集めた研究情報誌である。中国でこの種の出版物が、それも個人の努力によって発行されていたのは珍しい。私が知る限り、1990年代に南京の張純氏が『晚清小説快訊』を4期出している。学会の出版物なら中国近代文学学会、山東近代文学学会が『中国近代文学研究通訊』を3期出して休刊した。刊行を継続するのは、それくらいむづかしい。

『清末小説から』第77号

2005.4.1

漢訳ハガード小考	『血泊	
	鴛鴦』の原作樽本照雄
鄭富灼及其編纂の商務印書館		
	英語教科書張 英
	『新小説』の発行遅延杜 筆恩
	百年是非、如何評説?2欧陽縈雪
	晚清小説作家掃描(貳)武 禧
	漢訳アラビアン・ナイト(11)樽本照雄

百年是非，如何評説？3

劉鶚與山西鉞事新論

歐陽縈雪

但到了太原，劉鶚發現這是一份不好弄的差使。他在《菩薩蠻》四首小序中說：“丁酉七月，由燕赴晉，風塵竟日，苦不勝言，每夕必以弦歌解之”。詞曰：

燕姬趙女顏如玉，鶯喉燕舌歌新曲。挾瑟上高堂，娥娥紅粉粧。倚窗嬌不語，漫道郎辛苦。披弦兩三聲，問郎聽不聽？

客心正自悲寥廓，那堪更聽蓮花落！同是走天涯，相逢且吃茶。芳年今幾許？報道剛三五。作妓在邯鄲，于今第七年。

朝來照鏡着顏色，青春易去誰怜惜？挾瑟走沿門，如何托鉢人！行云無定處，夜夜蒙霜露。難得有情郎，鷄鳴又束裝。

狐悲兔死傷同類，荒村共掩傷心淚，紅袖對青衫，飄零終一般！有家歸不得，歲歲常爲客。被褐走江湖，誰人問價沽。

詞后小注云：“右調《菩薩蠻》，皆紀實也。男子以才媚人，婦人以色媚人，其理則一。含詭忍恥，以求生活，良可悲已！況媚人而費用不售，不更可悲乎？白香山云：‘同是天涯淪落人’。湯臨川云：“百計思量，沒個爲歡處！”我亦云然”^{*38}。

初到太原的劉鶚，爲什麼會有“媚人而費用不售”的悲感？因爲那實在是兩頭不討好的生活。“晉鐵開則民得養而國可富也”，晉鉞一定要開，但所需經費過巨，國無素蓄，自己拿不出錢；籌借洋款、亦即引進外資，是胡聘之的主張，劉鶚自然也是贊同的，但各人扮演的社會角色不同。作爲經濟人，劉鶚是福公司的代表；作爲自然人，劉鶚是富有愛國心的中國人，這就引出了尖銳的矛盾。正如羅振玉所說：“當君說晉撫胡中丞奏開晉鐵鉞時，君名佐歐人，而與訂條約，凡有損我權利者，悉托政府之名以拒之，故久乃定約”^{*39}。其時兩頭說合，真有點“挾瑟走沿門，如何托鉢人”的味道。劉鶚《太原返京道中宿明月店》云：

南天門外白云低，攬轡東行踏紫霓。
一路弦歌歸日下，百年經濟起關西。
燕姬趙女雙蟬鬢，明月清風四馬蹄。
不向杞天空墜淚，男兒意氣古今齊。^{*40}

此詩肯定不作于最后一次由太原返京道中。光緒二十三年九月三十日(1897年10月25日)，終於簽訂了《與福公司開辦山西煤鉞合同》與《開辦山西煤鉞借款合同》，故劉鶚一路弦歌，心境甚佳，以爲可以“百年經濟起關西”了。

誰知草約初定，胡聘之就遭到山西籍京官的交章彈劾。光緒二十四年二月初八日(1898年2月28日)諭軍机大臣等：“都察院奏山西京官呈訴‘山西興辦鐵路流弊滋多請飭停辦’一折，山西興辦鐵路，前據該撫奏稱，因所產煤鐵各鉞，須修鐵路，方能運銷。現有皖粵各紳商籌借洋款來晉開辦，並聲明洋款與洋股有別，當經降旨，允其興辦，並令預防流弊，酌定詳細章程，奏明辦理，迄今尚未奏到。茲據山西京官呈稱，該撫竟將潞安，澤州、沁州、平定二府二州，典與洋人等語，覽奏深堪詫異。疆吏身膺重寄，興辦大舉，總當計慮周詳，而慎之于始。若但顧目前之微利，而不思后日之隱憂，孟浪從事，而后患至不可思議，朝廷亦安用此疆吏爲耶？況山西地非冲要，又山徑崎嶇，修造鐵路，本重利微，斷非華商所樂爲，必有洋商巨股，爲之壟斷，稍有不慎，墮其術中，將來堂奧洞開，險要盡失，加以各國競相援照，引爲口實，彼時應之不能，拒之不得，該撫能當此咎否？總之，此事關係重大，必須慎之又慎，不可稍涉遷就。現在辦理情形若何，所稱皖粵紳商是何姓名，是否的實可靠，所議合同是否細密，總以計出萬全，毫無流弊，爲第一要義。著將現辦情形及擬定章程，刻日具奏。至該京官原呈所指方孝傑、劉鶚二員，聲名甚劣，均著撤退，毋令與聞該省商務。又左都御史徐樹銘奏，山西鉞務鐵路宜歸紳民自辦各節，著胡聘之一並詳議具奏。都察院折呈並徐樹銘折各一件，均著抄給閱看，將此諭令知之”^{*41}。

胡聘之接奉此上諭之后，遵“酌定詳細章程，奏明辦理，迄今尚未奏到”之旨

意，于光緒二十四年二月二十四日(1898年3月16日)奏：“復陳晉省鐵路鉅務，歸商借款承辦情形，並將合同章程呈覽”。下所司議⁴²。至于上諭所言“山西京官呈訴‘山西興辦鐵路流弊滋多請飭停辦’一折”，以及指責自己“但顧目前之微利，而不思后日之隱憂，孟浪從事，而后患至不可思議”，似乎未予申弁，也許在他想來，既然已將歸商借款承辦情形與合同章程呈覽，則是否孟浪從事，已不須多言。惟朝廷聽信京官指斥方孝傑、劉鶚“聲名甚劣”，下旨“均著撤退，毋令與聞該省商務”，則已無挽回餘地矣。

胡聘之的奏折與合同章程報到以後，朝廷果然進行了復議。光緒二十四年三月十三日(1898年4月3日)，都察院奏：“山西京官條陳山西商務局辦理借款合同，利歸外國，貽害朝廷，撫臣漫以‘毫無流弊’上聞，關係重大，請飭核議”。得旨：“著歸入胡聘之前奏內一並議”。尋奏：“總理各國事務衙門奏，遵議山西鐵路鉅務，就撫臣胡聘之所訂合同章程，按之山西京官及徐樹銘、何乃瑩陳奏，參酌條復原訂借款合同章程，利息既重，國家應得餘利暨地租稅課，均尚無著，自應酌量增改。山西京官原呈，謂將潞安等屬典與洋人。徐樹銘奏，謂將鐵軌開鉅，包與洋人，均屬過甚，且或誤會，無以折服洋人。何乃瑩奏，停借洋款，持論雖正，惟借款開辦，業經奉旨，勢難反汗，果將合同章程斟酌妥善，于國于民，不無裨益。謹將晉紳與華俄銀行暨福公司議款，徑與洋商磋商，逐一妥改，並聲明商人籌借，如有虧折，與中國國家毫不干涉”。從之⁴³。認為“原訂借

款章程，利息既重”，應酌量增改；而所謂“將潞安等屬典與洋人”、“將鐵軌開鉅包與洋人”，均屬過甚其辭，停借洋款之論，更與奉旨借款開辦相牴牾，結論是“將合同章程斟酌妥善，于國于民，不無裨益”。實際上是肯定了胡聘之的做法並沒有違背朝廷的旨意。所以光緒二十四年閏三月初一日(1898年4月21日)御史陳其璋奏：“鐵路鉅務請廣為籌辦，其山西路鉅，並懇設立監督”。下總理各國事務衙門議。尋奏：“該御史所請各節，應俟派定鐵路鉅務大臣，隨時酌復，奏明辦理。至山西鉅務，業經與洋商改訂合同，另行具奏”。從之⁴⁴。承認鐵路鉅務應廣為籌辦，對於山西路鉅，則不過是設立監督而已。

但事情並沒有就此完結。光緒二十四年閏三月二十日(1898年5月10日)，張官等舉人91人、趙國良等拔貢生20人、優貢生楊宗時、廩生田助公等共113人，以“鉅務將興，利權旁落，請旨飭令自辦，以杜隱患，而安人心”等詞赴都察院呈請代奏，中曰：“竊維山西產鉅金銀絕少，煤鐵為多，初只聽民自采，官抽其厘，公私原兩便也。撫臣急于興利之舉，外洋遂起窺伺之端，而欲便私圖者，若劉鶚、方孝傑、賈景仁、曹中裕，遂羣起而力成之，不計國家利害，不顧輿情順逆，只期自飽貪囊，實已隱傷國本。幸而朝庭洞鑑萬里，斥去劉鶚、方孝傑，晉省士民，莫不忭頌，以為國計可以自操，生民可以安堵。乃現聞方、劉、賈、曹四人羣集都門，賈景仁屢請義俄兩國人，及方、劉二人暗中慫恿，挾外洋以自固，必欲為所欲為，而洋人亦憑藉該員等之詭謀，以逞其驕志。設無該員等，則

洋人之欲攫吾利者，如夜行無燭，實無能爲。張官等確見其蠹國病民之實，敢揭其欺君罔上之情，爲我皇上披肝瀝膽陳之：鉅務之興，貴在利國。今章程所載，四分其百分之利，洋商得其二，局員得其一，而國家乃以自有之鉅亦僅得其一，何輕重之不倫也。利中國乎？抑利外國及貪墨之紳商乎？不待辨析而知矣。彼其巧于欺飾者，特借‘商借商還’一語爲詞，意謂朝廷雖無大利，亦無大害也。然試問該員等與義國所訂條款，果系借洋債乎？抑實集洋股耶？章程具在，豈能倖逃宸鑑？況六十年爲期，鉅利已被挖盡，只與空洞與破壞器具，我朝廷將安用之？且借洋債以還清借款爲主，豈有必待六十年始准還清之理乎？其所以如此者，洋人可以久假不歸，該員等厚利坐擁；及六十年期滿，人已隔世，利害均與彼無關也。又況利鉅雖難預期成數，不難酌定，至問每歲歸本提若干成，公積提若干成，章程內不得而稽，該員等莫得而答也。豈真當局者迷？以一爲提明，則商借商還之詞，洋人不肯通融開載，該員等即不得行其欺朦也。掩耳盜鈴，誣誣實堪。夫以非我中土之人，一旦據我利產，痛痒既不相關，則利之所在，勒索民業，橫占民田，必非所恤。百姓既震驚于異言異服，復不忍其侵奪之苦，設激而行變，恐心腹之疾，更甚于外洋。張官等晉籍也，知晉甚悉，其俗素知秉禮，其民懷刑守法，是以二百餘年教匪捻匪幾遍天下，而晉省不聞貽朝廷西顧之憂。然其怯于私狠者，正其勇于公義者也。方張官等來京之際，聞各處百姓多有相聚而議者，謂鉅地一質六十年，並民鉅稍碍于彼者，

必勒買而后已。商局其賣我乎？是以膠旋視我也。我等當舍九死以壯聖代山河之色，不能忍一息以希外洋奴隸之顏，其情可憫，其愚亦可慮也。張官等受二百餘年養士之恩，深見愚民之地固結如此，設無一言上達，士風不其掃地乎？因于萬不得已之中，籌一猶足自全之策，莫若以土人行土法，勸之以地方官長，而不設局員，董之以本處摺紳，而不籌局費試辦，于至微至小以驗其盈虧，約計三年后試之，而利爲之者必多，然后錄其微勞，加以獎勵，使歲主其事以貢其贏餘，國之肥也。設其不利而亦無損于國，豈不甚善？即不然，吁懇明降諭旨，飭令晉省紳商自行籌辦，其所借洋款未成交者可以勿論，既成交者設法籌還，庶利權自執，不至受制于人。該紳商食毛踐土，戴朝廷厚德，自當踊躍從公。彼洋人知我自爲，亦當無辭以退。山西幸甚，天下幸甚。至鐵路不過爲煤鐵運銷之計，鐵爲軍械之資，而晉產質堅，尤甲天下，絕非洋鐵所能及，保而用之，實國家之武庫也。今以利人死命之物甘假手于人，無論不能求利，即盡聚各國之利而無利器以衛之，致令他人挾此利器反而制我，則其利又豈能終保乎？是鐵路之必不可開，盡人皆知。鉅利固可信，必當熟籌利害，而興辦鉅務之人，要由公同選舉，方無流弊。何也？廉潔之志，必不貪求，其急于自獻者，皆其藉以自私者也，有不懷奪而刻薄者乎？總之，洋款萬不可輕借，鐵路必不可輕開，民心絕不可輕失。張官等實因消隱患順輿情起見，用是不避忌諱，叩懇據情，代爲具奏。吁懇我皇上宸衷獨斷，以保國家自有之利權。不勝惶悚，待命之

至。抑張官等猶有陳者，現在局紳賈景仁、曹中裕曾于局內挾妓宴飲，揮金如土，商股因此不能再勸，僅集七十餘萬金而止，小民以其首禍也，側目已久。尚懇代陳皇上，應如何辦理，以維商務，並應告飭五城御史，將特旨撤退之劉鶚、方孝傑逐令出京，交地方官管束，以免日勾洋人攪壞。大局之處，出自宸斷，張官等未敢擅請，謹聯名叩懇，一並奏聞，實為德便”⁴⁵。

閏三月二十三日(1898年5月13日)都察院御史裕德、值班左都御史徐樹銘等將此呈轉奏，中曰：“臣等公同查閱，原呈內稱山西產鉍金銀絕少，煤鐵為多，聽民自采，官抽其厘，公私兩便。撫臣急于興利，外洋遂起而窺伺，而便私圖者，若劉鶚、方孝傑、賈景仁、曹中裕等，不計國家利害，不顧輿情，自飽貪囊，隱傷國本。設激而生變，恐心腹之疾，更甚于外洋。其情可憫，其愚可慮等語。臣等查該舉人等所呈各節，與前此臣等兩次代奏該省京官公呈情節大略相同，足見該省紳民志慮所及，僉相孚合。該舉人等既取具同鄉官印結呈請代奏，臣等不敢壅于上聞，並將原呈恭呈御覽，伏乞皇上聖鑑”。

張官等人指責“撫臣急于興利之舉，外洋遂起窺伺之端”，把矛頭對准山西近代化的奠基者胡聘之，而“洋款萬不可輕借，鐵路必不可輕開”，才是他們的根本目的。透過慷慨激昂的“愛國”言辭，看看他們的“論證”，就知道不是出于無知，就是出于偏見。如謂“鐵為軍械之資，而晉產質堅，尤甲天下，絕非洋鐵所能及”，故“鐵路之必不可開，盡人皆知”，豈非無知？既已承認“鉍利固可信”，却仍要“以土人行

土法”，豈非拘泥之見？至于中外利益之分成，經辦人之自飽貪囊，都是實施中必然出現的新問題，自應設法防止，但也應實事求是。如內閣中書鄧邦彥，一方面說“若方孝傑、劉鶚專交通洋人，圖飽私囊，出為此謀”，另一方面又說“此固得諸聽聞，無足深究”，根本不是負責任的態度。

張官呈中還有“我等當舍九死以壯聖代山河之色，不能忍一息以希外洋奴隸之顏”一類豪言壯語，以及“設激而生變，恐心腹之疾，更甚于外洋”一類警世之言。其實，被后世史學家看好的所謂“民心”、“輿情”，完全是由這班京官舉人制造出來的。裕德說，“查該舉人等所呈各節，與前此臣等兩次代奏該省京官公呈情節大略相同，足見該省紳民志慮所及，僉相孚合”，道出了個中的本質。李伯元在《文明小史》中，早已將這種“激情”揭露無遺。小說寫民俗渾噩的湖南永順府，忽然來了幾個由實心為國的督撫聘來察看鉍苗意大利的鉍師，出于對洋人侵侮的仇恨，千百年來有關“風水”的迷信，扞格不通的鄉民將它看成是一場騙局，加上有人借機散布謠言，說官府要把山水通統賣給外國人，憤激的民衆喊出：“先到西門外打死了外國人，除了后患，看他還開得成開不成鉍？”“先去拆掉本府衙門，打死瘟官，看他還能把我們的地方賣給外國人不能？”一場以興利為要旨的探鉍活動，终于在多種因素的沖突中歸于夭折。

京官與舉人控告的直接結果，是胡聘之于光緒二十五年八月八日(1899年9月12日)撤任，十月十六日(1899年11月18日)返回湖北老家。繼之任巡撫的王之春(1899年

9月12日任命)、鄧華熙(1899年11月3日任命)好像都未到任,而由布政使何樞護理。被京官條陳與舉人公呈弄得昏頭昏腦的護理巡撫何樞,在光緒二十五年十二月十一日(1900年1月11日)奏了一份“查明晉省鐵路鉅務窒礙難辦情形”的折子。下所司議,尋總理各國事務衙門奏:“查何樞原奏,但據土法開采爲難立論,于前訂合同,無一語提及。似于此事議辦原委,尚未悉其曲折。現在事隔兩年,若將已訂合同,停止辦理,事關交涉,恐多枝節,將來議辦,應該撫查照合同各歸各案,查明與地方有無窒礙,分別准駁辦理”^{*46}。題目是“查明”,然而却沒有查“明”,這絕不能怪何樞之無能。及最爲仇洋的毓賢于光緒二十六年二月十四日(1900年3月14日)任山西巡撫之后,在路鉅問題上即盡改胡聘之之所爲。他在奏折中說:“擬開鐵路鉅務兩事,大爲地方之害,碍難辦理”。理由是:“若興辦鐵路,門戶洞開,……一旦有事,強隣可長驅直入,此鐵路不可開者一也”;“鐵路一開,生机立蹙,萬民待命,人心惶惶,此鐵路不可開者二也”;“鐵路一開,……小民無可謀生,將恐盡成餓殍,此鐵路之不可開者三也”;“晉省山多田少……鐵路一開,必致瀕成事端,此鐵路不可開者四也”;“晉省鉅務一無可恃,此鐵路之不可開者五也”,甚至荒唐地說:“即使者鉅可開,而煤皆毒臭,鐵盡剛脆,不能行遠!”結論是:“查此事有害無利,窒礙難行,合無仰懇天恩飭即停止,並飭總理衙門向外國公使婉爲開導,將山西鐵路鉅務作爲罷論,俾三晉錄爲完善之區,大局幸甚!天下幸甚!”毓賢所謂的“完善之

區”,就是永遠保持三晉愚昧封閉的狀態,爲此,他還裁撤了胡聘之“惟現當朝廷變法改革,力圖自強,武備儲才,尤爲今日急務”^{*47}。于1898年開設的山西武備學堂。于是,由前任巡撫胡聘之于十九世紀九十年代開創的山西近代化事業,便由現任巡撫毓賢在二十世紀初給徹底斷送了!

胡聘之回到湖北以后,丁未年(1907)冬,湖北教育總會成立,公舉會長,以胡聘之之應選,“逾時未久,忽奉革職之命,實當時在場推舉人之竊不自安,慮嘵嘵之口,疑吾輩徇其所私,乃舉喪失名譽之人以代表吾鄂學界也。爰調查中丞辦理晉省路鉅情事,臚記始末,凡我同人,幸垂覽焉”^{*48}。可謂一餘波耳。

【注】

- 37)馬建忠《適可齋記言記行·記言》卷一
- 38)《鐵雲詩存》第64頁,齊魯書社1980年第一版
- 39)羅振玉《五十夢痕錄·劉鐵雲傳》,《劉鶚及老殘遊記資料》第368頁
- 40)《鐵雲詩存》第12頁
- 41)《德宗實錄》卷415,第8-9頁
- 42)《德宗實錄》卷415,第26-27頁
- 43)《德宗實錄》卷416,第11-12頁
- 44)《德宗實錄》卷417,第1頁
- 45)裕德奏都察院折,光緒二十四年閏三月二十三日,中國第一歷史檔案館膠片
- 46)《德宗實錄》卷456,第15-16頁
- 47)胡思敬《戊戌履霜錄》第四卷
- 48)《調查胡中丞聘之辦理晉省鐵路鉅務始末詳記》

韓國所見清末民國通俗小説書目(初稿)

張 元 卿

凡 例

- 一 本書目所收小説系指在1840-1949年間創作和翻譯的通俗小説(包括彈詞和鼓書), 1949年以後的版本暫不收錄。
- 二 本書目依據韓國各收藏機構所出目錄和有關文章、專書集成, 目錄在附錄列出, 文章和專書則在注釋中說明。
- 三 本書目分爲甲、乙兩部。甲部收錄有明確出版時間的小説, 按出版時間排序, 時間採用西歷紀年; 乙部收錄未注明出版時間的小説, 按收藏機構首字拼音字母排序(個人收藏排在末尾)。
- 四 各條書目均依次著錄書名、作者(編者)、出版機構、版別、版次、收藏機構(個別書目內容不全, 暫付闕如); 各著錄內容悉按原樣照錄。
- 五 部分作品的考辯說明, 見注釋。

甲 部

- 1848年
《品花寶鑑》 陳森 木板本 奎章閣*1
- 1857年
《筆生花》 淮陰心如女史編 上海 全南大學
- 1858年
《花月痕》 昭鶴主人*2編

- 1878年
《青樓夢》*3慕眞山人
- 1884年
《後聊齋志異》*4王韜
- 1985年
《玉鴛鴦》*5王韜
- 1888年
《青樓夢》*6慕眞山人 瀟湘館評 木版 綫裝 釜山大學
《青樓夢》 慕眞山人撰 瀟湘館評 文魁堂 木板本 奎章閣
《花月痕》 眼鶴主人編 栖霞居士評 木板本 奎章閣
- 1889年
《忠義俠義傳》 右焦書屋 覆印 木版 延世大學
《忠烈俠義傳》*7 木版 延大
《七俠五義傳》*8 俞曲園訂 石板本 慶北大學
《繡像七俠五義傳》*9 石玉昆述 俞曲園訂 掃葉山房
《繡像全圖小五義》*10 無名氏撰 上海掃葉山房 石板本
- 1891年
《繪圖永慶升平前傳》*11 著者不詳 石印綫裝 上海錦章圖書局 成均館大學
《新刻全圖續小五義》 清 無名氏撰 光樓書坊 奎章閣
- 1892年
《繪圖永慶升平前傳》*12 木版本 巴蜀善成堂 刊 慶北大學
《續小五義》 清 鄭鶴齡 泰山堂本 木板 漢城大學*13
- 1893年
《繪圖花月因緣》 眼鶴主人編 栖霞居士評 上海書局 新活字本 成均館大學
- 1899年
《繡像全圖小五義》*14 撰者未詳 石印 掃葉山房
《繡像七俠五義傳》*15 石玉昆述 曲園居士重編 石印綫裝 掃葉山房
- 1901年
《巴黎茶花女遺事》*16 Alexande dumas著 林紓譯 玉情瑤怨館板 石版本 漢城大學
- 1906年

- 《紅風傳》*17不題撰人 石印 上海 萃文參
《海上繁華夢新書後集》*18笑林報館校刊 新
活字版綫裝 成均館大學
《文明小史》*19李寶嘉撰 商務印書館 鉛 活
字本 宋俊浩
- 1909年
《品花寶鑑》 陳森 綫裝 木板 成均館大學
- 1910年
《繡像七劍十三俠》 桃花館主 上海書局 石印
高麗大學亞細亞問題研究所
《繪圖新出情天劫小説》東亞寄生(清)撰 石
印 精神文化研究院
- 1911年
《繪圖民國新漢演義》*20自由生編 上海書局
石印
《醒世國事悲》*21 上海書局 石印 延世大學
《醒世小説國事悲》 冷血生 上海書局 石版
漢城大學*22
- 1912年
《繡像神州光復志演義》*23 王雪庵編 上海神
州圖書局 石印 綫裝 東國大學
《繡像神州光復志演義》 雪庵編 上海神州圖
書局 梨花女大
《繡像神州光復志演義》王雪庵 神州圖書局
石印 高麗大學
《繡像英雄淚國事悲全集》 著者未詳 上海 石
印 高麗大學亞細亞問題研究所
《神州光復志演義》*24 王雪庵編 逸廬 校 神
州圖書局 石印
《太平天國演義》*25 龍潭居士著 成大
《繡像神州光復志演義》 王雪庵編 神州圖書
局 石印 延世大學
《紅淚傳鼓詞》(繡像)作者不詳 上海江東茂
記書局 石印 嶺南大學
《繡像神州光復志演義》王雪庵編 神州圖書局
石印 精神文化研究院
《繡像英雄淚國事悲全集》鷄林冷血生著 上海
書局編 木板 國立中央圖書館
《繡像神州光復志演義》 王雪庵編 逸廬氏校
神州圖書局 石板本 國立中央圖書館
《繪圖筆生花》心如女史 上海書局 石印 民族
美術研究所
- 1914年
《滿清興亡史》 陸保璇 上海新中國圖書局 鉛
活字 綫裝 全南大學
- 1915年
《說唱歐洲戰事記鼓兒詞》*26 嚴霽青著 上海
江東書局 石印 精神文化研究院
- 1916年
《滿清稗史》*27 陸保璇編 上海新中國圖書局
新鉛活字本 釜山大學
《滿清興亡史》*28 漢史氏外述 上海新中國圖
書局 綫裝 釜山大學
《醒世小説中華新國事悲英雄淚》 未注明著者
上海江東書局 石版本 梨花女大
《新編袁世凱皇帝夢說唱鼓詞》 [著者未詳]
上海江東書局 石印 綫裝 龍仁大學
- 1917年
《民國演義》*29 西泠樂天生編修 石印 江東
書局 國立中央圖書館?
《清史通俗演義》*30 蔡東帆編 石印 綫裝 上
海會文堂
《民國演義》 上海 江東書局 石印 延世大學
《清史通俗演義》 蔡東帆編 會文堂 延世大學
《清代演義》王炳成(清) 上海商務印書館
鉛活字本 三版 民族美術研究所
- 1920年
《繪圖朝鮮亡國演義》 楊塵因 益信書局 石印
綫裝 東國大學
《繪圖中華開國全傳》 [著者未詳] 上海廣益
書局 石印 龍仁大學
- 1921年
《民國通俗演義》 蔡東藩 許塵父共著 上海新
記書局 鉛印本 高麗大學
《繪圖民國通俗演義》蔡東藩 許塵父 上海會
文堂 石印 高麗大學
《繪圖民國通俗演義》著者未詳 上海會文堂
石印 民族美術研究所
《繪圖漢史通俗演義》 蔡東帆編述 琴石山人
校 上海會文堂 石印 精神文化研究院
《繪圖明史通俗演義》 蔡東帆編述 上海會文
堂 石印 二版 民族美術研究所
《繪圖元史通俗演義》 蔡東帆編述 上海會文
堂 石印 二版 民族美術研究所

1922年

- 《繡像明史通俗演義》蔡東帆 上海會文堂 高麗大學
《繪圖白蓮教演義》吳公雄 世界書局 初版 高麗大學
《繪圖宋史通俗演義》蔡東帆 上海會文堂 石印 忠南大學
《繪圖宋史通俗演義》蔡東帆編述 上海會文堂 石印 民族美術研究所
《張作霖演義》未注明著者 上海大成書局 石印 嶺南大學
《繡像神州光復志演義》王雪庵 編 上海廣益書局 石印八版 延世大學
《繡像元史通俗演義》蔡東帆 編 琴石山人 校 四版 國立中央圖書館
《繪圖明史通俗演義》蔡東帆編述 上海會文堂書局 石印精神文化研究院
《宋史通俗演義》蔡東帆編述 上海會文堂書局 石印 精神文化研究院

1923年

- 《繪圖袁世凱演義》通俗小説社 編 世界書局 鉛印 高麗大學
《繪圖唐史通俗演義》*³¹ 蔡東帆 上海會文堂 石印 清州大學
《繪圖宋史通俗演義》蔡東帆 上海會文堂 石印 高麗大學
《繪圖唐史通俗演義》蔡東帆述 上海會文堂書局 石印 精神文化研究院
《新式標點官場現形記》許嘯天句讀 胡雲翼校 上海 漢城大學*³²

1924年

- 《清史通俗演義》(增訂繪圖)蔡東帆 上海會文堂 石印 全南大學

1925年

- 《繪圖南北史通俗演義》蔡東帆編述 會文堂 石印 綫裝 成均館大學
《繪圖兩晉通俗演義》蔡東帆編輯 會文堂 成均館大學
《醒世小説九尾龜》漱六山房著 三友書社 校 漢城大學*³³

1926年

- 《繪圖明史通俗演義》蔡東帆 上海會文堂 石

印 綫裝 忠南大學

- 《繪圖後漢通俗演義》上海 會文堂新記書局 石印 高麗大學
《繪圖前漢通俗演義》蔡東帆編輯 會文堂 石印 綫裝 成均館大學
《繪圖唐史通俗演義》蔡東帆編 琴石山人 校 石板本 十版 國立中央圖書館

1927年

- 《繪圖唐史通俗演義》蔡東帆編述 上海會文堂 石印 高麗大學
《繪圖後漢通俗演義》蔡東帆編輯 會文堂新記書局 石印 綫裝 成均館大學

1928年

- 《繪圖宋史通俗演義》蔡東帆 上海會文堂 高麗大學
《繪圖前漢通俗演義》蔡東帆 上海會文堂 高麗大學
《繪圖明史通俗演義》蔡東帆編 上海會文堂書局校 石板本 二十七版 國立中央圖書館
《海上花》韓子雲著 汪原放句讀 上海 再版 漢城大學*³⁴

1929年

- 《繡像太平天國演義》*³⁵ 大成 成大
《繪圖宋史通俗演義》會文堂 石印 綫裝 成均館大學

1930年

- 《繪圖元史通俗演義》蔡東帆 會文堂 石印 高麗大學
《繪圖五代通俗演義》蔡東帆 會文堂新記書局 成均館大學

1931年

- 《繪圖七俠五義傳》著者未詳 上海共和書局 石印 精神文化研究院
《繪圖小五義全傳(及)續》*³⁶著者未詳 上海共和書局 精神文化研究院
《俠義小五義》天奇寶主 標點 上海 漢城大學*³⁷

1932年

- 《繪圖元史通俗演義》蔡東帆 上海會文堂 石印 綫裝 檀國大學
《繪圖後漢通俗演義》蔡東帆 上海會文堂 高麗大學
《繪圖南北史通俗演義》蔡東帆 編輯 上海會

文堂新記書局 石印 高麗大學
《繪圖唐史通俗演義》蔡東帆 會文堂書局 石
印 綫裝 成均館大學
1934年
《繡像洪秀全集》嶋世次郎*³⁸上海萃英書局
石印 高麗大學
《繪圖洪秀全演義》汪繼川編輯 上海華英書
局 石印 綫裝 成均館大學

乙 部

《品花寶鑑》*³⁹
《繡像評演前後濟公傳》著者不詳 上海錦章
圖書局 石印 刊期不詳 成均館大學
《繡像繪圖小五義》石玉昆 上海 進步書局
石印 綫裝 成均館大學
《繡像繪圖續小五義》石玉昆 上海 進步書局
石印 綫裝 (清末 - 中華初) 刊 成均館
大學
《繡像繪圖七俠五義傳》俞樾 石印 綫裝 成
均館大學
《花月痕全傳》眼鶴主人 編 栖霞居士 評 上
海文盛書局 石板本 成均館大學
《繪圖正續兒女英雄傳》文康 編 清末 上海
茂記書局刊 成均館大學
《足本大字七劍十三俠初集》清 無名氏 撰 唐
芸洲編次 石板本 清末上海廣益書局 成
均館大學校
《青樓夢》*⁴⁰ 慕真山人著 1878年序 綫裝 木
板 成均館大學
《洪秀全演義》番禺黃世仲 撰 石板本 東亞
大學
《青樓夢》*⁴¹ 慕真山人撰 瀟湘館評 清末刊
木版本 東亞大學
《繪圖兒女英雄傳》10册 東亞大學
《繪圖後漢通俗演義》編者未詳*⁴² 上海會文
堂 石印 綫裝 東國大學
《吳三桂演義》民國? *⁴³ 高麗大學
《繪圖唐史通俗演義》蔡東帆 上海會文堂 石
印 綫裝 刊年不詳 國會圖書館
《繪圖宋史通俗演義》蔡東帆 會文堂 刊年不
詳 國會圖書館
《繪圖洪秀全演義》嶋世次郎(日本)*⁴⁴上

海廣益書局 19? 高麗大學
《我佛山人札記小説》吳研人*⁴⁵著 上海 掃
葉山房 [19] 石印 高麗大學
《繡像英雄淚》*⁴⁶ 冷血生 (191?) 石印本
高麗大學
《繪圖民國新漢演義》自由生 上海書局 零本
2册 高麗大學
《青樓夢》慕真山人撰 瀟湘館評 清末上海申
報館刊 鉛印本 高麗大學
《繪圖兒女英雄傳》文康編 燕北閑人評 木板
本 高麗大學
《英雄淚》編著者未詳 石印 刊年未詳 精神文
化研究院
《忠烈俠義傳》清 無名氏撰 筆寫年 筆寫者
未詳 朝鮮筆寫本 精神文化研究院
《繡像小八義》清 無名氏撰 章福記書局 石
板本 江陵市船橋庄
《繡像七劍十三俠全集》*⁴⁷ 桃花館主編次 上
海錦章圖書局 民族美術研究所
《花月痕全傳》眼鶴主人編 栖霞居士評 木板
本 清末刊行 民族美術研究所
《繪圖正續兒女英雄傳》文康編 清末 上海茂
記書局刊 民族美術研究所
《中華民國開國新戰史》演義著 梨花女大
《洪秀全演義》番禺黃世仲撰 清末廣益書局
石板本 梨花女大
《新編醒世奇文國事悲英雄淚小説》冷血生
石印 綫裝 龍仁大學
《繡像繪圖七俠五義傳》全南大學
《增像小五義全傳》清 無名氏撰 石板本 全
南大學
《增像續小五義》清 無名氏撰 刊行年未詳
石板本 全南大學
《繡像七劍十三俠》清 無名氏撰 唐芸洲編次
清末刊行石板本 全南大學
《洪秀全演義》番禺黃世仲撰 石板本 全南大學
《繪圖批點花月痕》眼鶴主人編 栖霞居士 評
清末刊行 石板本 全南大學
《繪圖續兒女英雄傳》文康編 我書室主人 評
清末 石板本 全南大學
《繪圖兒女英雄傳》文康編 我書室主人 評
石板本 全南大學

- 《黎元洪武昌起義》上海江東書局 石印 延世大學
- 《繡像英雄淚》冷血生 石印 延世大學
- 《二十載繁華夢》*⁴⁸ 石印 延世大學
- 《繪圖洪秀全演義》錦章圖書局 1914年序 延世大學
- 《足本大字繡像大八義》上海廣益書局 石印 綫裝 1910年? 忠南大學
- 《繡像英雄淚國事悲全集》*⁴⁹ 鶴林 冷血生 著 石印
- 《繡像七劍十三俠》*⁵⁰ 石印
- 《繡像忠烈續小五義》清 無名氏撰 簡青齋書局 木板本 朴在淵
- 《吳三桂演義》上海錦章書局 石板本 朴在淵
- 《繡像小人義》*⁵¹ 撰者未詳 石印 綫裝 [中華年間]

【注】

- 1) 錄自閔寬東《中國古典小説史料叢考》(亞細亞文化社, 2001年)。
- 2) 據《中國通俗小説總目提要》(江蘇省社會科學院, 中國文聯出版公司, 1990年), 昭鶴主人當作眠鶴主人。
- 3) 錄自《朝鮮總督府古圖書目錄》, 漢城亞細亞文化社, 1985年
- 4) 錄自《朝鮮總督府古圖書目錄》, 漢城亞細亞文化社, 1985年。該書國內現有多種校點本。
- 5) 同上。
- 6) 《中國通俗小説總目提要》(江蘇社科院編, 中國文聯出版公司, 1990年)有著錄, 據該提要知“慕眞山人”是“俞達”, “瀟湘館”或即“鄒韜”。
- 7) 錄自朴在淵編《韓國所見中國小説書目》(《中國學研究》第六輯, 1991年)。延大即延世大學校。
- 8) 錄自閔寬東《中國古典小説史料叢考》(亞細亞文化社, 2001年)。
- 9) 錄自閔寬東《中國古典小説史料叢考》(亞細亞文化社, 2001年)。收藏機構爲江陵市船橋庄。
- 10) 同上。
- 11) 《中國通俗小説總目提要》有著錄, 有成書情況和版本介紹, 但未提及本日著錄的錦章圖書局版。
- 12) 錄自閔寬東《中國古典小説史料叢考》(亞細亞文化社, 2001年)。
- 13) 錄自《京城帝國大學附屬圖書館和漢書書名目錄》(原刊於1933年, 民昌文化社, 1996年), 該目錄所收圖書現藏於漢城大學校。
- 14) 錄自《韓國典籍綜合調查目錄》第三輯(文化財管理局, 1989年)。收藏者爲江原道船橋庄。本書與注釋10所錄的《繡像全圖小五義》同出船橋庄, 書名、出版機構均相同, 只是出版時間不同, 我懷疑此處著錄的時間有誤, 很可能是把1889誤寫作1899, 因此這兩處著錄的當是同一本書。
- 15) 資料來源同上。原目錄中“石王昆”當作“石玉昆”。本書與注釋9所錄的《繡像七俠五義傳》同出船橋庄, 書名、出版機構均相同, 只是出版時間不同, 我懷疑此處著錄的時間有誤, 很可能是把1889誤寫作1899, 因此這兩處著錄的當是同一本書, 與注釋10和注釋14的情形相同。
- 16) 據原目錄記載, 該書的韓書名爲《椿姬》。
- 17) 錄自朴在淵《韓國所見晚清小説<紅風傳>》(《中國小説研究會報》, 1990年)。《紅風傳》又作《繡像紅風傳》。“萃文參”應作“萃文齋”。1994年, 韓國鮮文大學出版了朴在淵校點的《紅風傳》, 書末附有周先慎《關於北京大學藏本清代小説<紅風傳>》。1997年, 中國大百科全書出版社出版的《韓國藏中國稀見珍本小説》叢書收錄了《紅風傳》。2001年, 內蒙古人民出版社出版了《英雄淚紅風傳》。現在網路上有網路版《紅風傳》。
- 18) 《海上繁華夢》又名《繡像海上繁華夢新書》, 作者孫玉聲, 有初集、二集和後集, 本日此書即其中之後集。1988年, 江西人民出版社出版了《海上繁華夢》(收入“中國近代小説大系”), 其中之後集即以1906年笑林報館校刊本爲底本。
- 19) 錄自閔寬東《中國古典小説史料叢考》。
- 20) 錄自朴在淵編《韓國所見中國小説書目》

- (《中國學研究》第六輯, 1991年)。該書為朴在淵個人收藏。21) 著者即冷血生, 該書內題“醒世小說國事悲”。
- 22) 錄自《京城帝國大學附屬圖書館和漢書書名目錄》(原刊於1933年, 民昌文化社, 1996年), 該目錄所收圖書現藏於漢城大學校
- 23) 1991年, 天津百花文藝出版社出版的《大清帝國興亡錄》(王雪庵著, 丁辛、賈瑞蘭校點) 即是《繡像神州光復志演義》, 只是換了書名。
- 24) 資料來源同注釋20。原目錄中收藏機構題作: 東大、仁壽、筆者。東大即東國大學, 仁壽或即仁壽大學, 筆者為朴在淵。
- 25) 資料來源同注釋20。成大即成均館大學。
- 26) 據原目錄記載, 該書“表紙書名”為“醒世小說歐戰彈詞”。
- 27) 錄自《韓國典籍綜合調查目錄》(第七輯, 文化財管理局, 1993年)。1987年, 北京中國書店出版過陸保璇編《滿清稗史》。
- 28) 資料來源同上。據原目錄記載, 《滿清興亡史》亦題作《滿清稗史》。
- 29) 錄自朴在淵編《韓國所見中國小說書目》(《中國學研究》第六輯, 1991年)。國立即國立中央圖書館。30) 錄自《韓國典籍綜合調查目錄》(第七輯, 文化財管理局, 1993年)。該書收藏於釜山女子大學校伽椰文化研究所。蔡東帆即蔡東藩。
- 31) 錄自《韓國典籍綜合調查目錄》(第九輯, 文化財管理局, 1996年)。
- 32) 錄自《京城帝國大學附屬圖書館和漢書書名目錄》(原刊於1933年, 民昌文化社, 1996年), 該目錄所收圖書現藏於漢城大學校。
- 33) 同上。
- 34) 同上。
- 35) 錄自朴在淵編《韓國所見中國小說書目》(《中國學研究》第六輯, 1991年)。原目錄曾在書名後用括弧注明“洪秀全演義”。
- 36) 閔寬東《中國古典小說史料叢考》著錄本書時沒有把書名寫全, 沒有寫出版時間。
- 37) 錄自《京城帝國大學附屬圖書館和漢書書名目錄》(原刊於1933年, 民昌文化社, 1996年), 該目錄所收圖書現藏於漢城大學校。
- 38) 嶠世次郎即黃小配, 該書有黃小配序。《中國通俗小說總目提要》有黃小配生平事略。
- 39) 錄自《朝鮮總督府古圖書目錄》(漢城亞細亞文化社, 1985年)。該目只著錄了書名。
- 40) 此書為袖珍本, 表題“挹香傳”。此袖珍本或即《中國通俗小說總目提要》提及的光緒戊子(1888)文魁堂刊小本。
- 41) 錄自閔寬東《中國古典小說史料叢考》(亞細亞文化社, 2001年)。
- 42) 作者是蔡東藩。
- 43) 據歐陽健稱該書“作者似為一多產小說家, 然已難懸度其為何人”, 又稱該書“是晚清最後一部講史小說”(見歐陽健《晚清小說史》, 浙江古籍出版社, 1996年)。據歐陽健《晚清小說史》記載, 該書於1911年由上海書局石印。
- 44) 嶠世次郎是中國作家黃小配。
- 45) “研”當作“研”。本書收藏於高麗大學校華山文庫, 著錄於《高麗大學校漢籍綜合目錄》, 高麗大學校中央圖書館, 1975年。
- 46) 1995年, 韓國學古房出版了朴在淵校點的《英雄淚》。1997年, 中國大百科全書出版社出版的《韓國藏中國稀見珍本小說》叢書收錄了《英雄淚》。2001年, 內蒙古人民出版社出版了《英雄淚紅風傳》。2002年, 中國大百科全書出版社出版的《中國稀見珍本小說》叢書收錄了《英雄淚》。
- 47) 錄自閔寬東《中國古典小說史料叢考》。
- 48) 該書又名《粵東繁華夢》, 作者黃小配, 1907年初版於漢口東亞印書局, 1908年上海書局出版了石印本。阿英《晚清戲曲小說目》、《中國通俗小說總目提要》有著錄。
- 49) 錄自朴在淵編《韓國所見中國小說書目》(《中國學研究》第六輯, 1991年)。收藏者為朴在淵。
- 50) 同上。
- 51) 錄自《韓國典籍綜合調查目錄》第三輯(文化財管理局, 1989年)。《繡像小人義》當是《繡像小八義》之誤。

附錄: 本目徵引的各收藏機構所出目錄(按照

在本書目中首次出現的順序排列)

- 《全南大學校古書目錄》 全南大學 1990年
- 《朝鮮總督府古圖書目錄》 漢城亞細亞文化社
1985年
- 《延世大學校古書目錄》 延世大學 1977年
- 《成均館大學中央圖書館古書目錄》(第二輯)
成均館大 1981年
- 《京城帝國大學附屬圖書館和漢書書名目錄》
原刊於1933年,民昌文化社,1996年
- 《古書目錄》 成均館大學1979年
- 《漢城大學校圖書館所藏想白文庫圖書目錄》
漢城大學圖書館 1978年
- 《亞細亞問題研究所藏書目錄》(六堂文庫) 高麗
大學亞細亞問題研究所1974年
- 《藏書目錄 古書篇1》韓國精神文化研究院 1
991年
- 《古書目錄》東國大學中央圖書館 1981年
- 《梨花女大圖書館古書目錄》韓國文化研究院
1981年
- 《高麗大學校中央圖書館漢籍目? (舊?)》高麗
大學中央圖書館 1984年
- 《嶺南大學中央圖書館藏書目錄》嶺南大學 19
73年
- 《國立中央圖書館所?外國古書目錄》(中國日
本篇) 韓國國立中央圖書館 1977年
- 《澗松文庫漢籍目錄》韓國民族美術研究所 19
67年
- 《古書目錄》龍仁大學 傳統文化研究所 2000
年
- 《忠南大學校古書目錄》忠南大學校圖書館 19
93年
- 《漢籍目錄》檀國大學栗穀圖書館 1994年
- 《國會圖書館古書目錄》國會圖書館 1995年

2004年11月30日 改定於圖大報恩館

■本誌第79号は、9月に公開予定です■

晚清小説作者掃描 (叁)

武 禧

(零零七)

邗上蒙人

小説創作:《風月夢》

邗上蒙人:姓名、籍貫不詳,生卒年亦不詳。僅《風月夢·自序》一文推測其簡況,約生於1800年(嘉慶五年)-1805年(嘉慶十年)之間,家境尚可。年幼嚴父見背,不喜讀書。稍長,肆意揮霍,留戀於風月場中。后醒悟,因所見所遇而著《風月夢》。1848年(道光二十八年)是書殺青。是年冬至寫完《自序》。書齋名“紅梅館”。江蘇揚州古稱“邗”,是書敘述內容為主人公自常熟而至揚州,故事發生亦在揚州。故推斷作者祖籍常熟,久居揚州。

邗上蒙人著《風月夢》又名《名妓爭風全傳》。有《自序》一篇,全文錄后。

《自序》

夫《風月夢》一書,胡為而作也?

蓋緣余幼年失恃,長違嚴訓;懶讀詩書,性耽遊蕩。及至成立之時,常戀煙花場中,幾陷迷魂陣里。三十余年所遇之麗色者,丑態者、多情者、薄倖者,指難屈

計。蕩費若干白鏹青趺，博得許多虚情假愛。迴思風月如夢，因而戲撰成書，名曰《風月夢》。或可警愚醒世，以冀稍贖前衍並留戒余后人勿蹈覆轍。

間有觀是書而問余曰：“此書分明是真，何以曰夢？”余笑而答曰：“夢即是真，真即是夢；曰真即真，曰夢即夢。”呵呵，哈哈。

時在道光戊申冬至后一日書於
紅梅館之南窗 邗上蒙人謹識

(零零八)

張紹賢

小説創作：《北魏奇史閩孝烈傳》

張紹賢：未見任何著錄。正文卷首次行有“閩川張紹賢爾修著”，而知作者名字。“閩川”泛指福建的河川，因此可以肯定，作者為福建人。作者詳情待考。是書藏德堂鑄版內封右部有“道光庚戌年”五字，可知出版時間為1850。則此書殺青不晚於1850年。由此推斷張紹賢應為十九世紀前半人。藏德堂版有圖十二副由《序》作者鐵盒呆道人提供。《序》后落款有“浯島”系今之金門島，“鷺江”不知所指，然今之廈門有“鷺門”、“鷺島”等別稱。本書作者與《序》作者均為福建人似可印證。

《北魏奇史閩孝烈傳》有《序》一篇，似與作者無涉，全文錄於后。

《序》

昔阮太冲憤兵驕將懦作《女云臺》二卷，雜取古婦人女子舉兵殺賊事多至數十百人。以予所聞，女將最著莫過於北魏之木蘭代父戍邊十二年，人不知其女也。因寫圖系詩以寄慨也。

近見坊友藏德堂新刊《閩孝烈傳》，蓋取古《木蘭辭》敷演成編，俾讀者忠孝之心油然而興起，其於世道豈云小補。乃以拙作圖詠付弁簡端，識其緣起如是。

時在道光庚戌夏六月
浯島鐵盒呆道人書於鷺江寄舫

(零零九)

燕北閑人

小説創作：《兒女英雄傳》

燕北閑人：原姓費莫氏，名文康，字鐵仙、悔庵，別號燕北閑人。滿族鑼紅旗人。生卒年諸說不一，根據郭延禮先生考，生於1800年前后，卒於1860-1870年間（彌松頤考證卒於1865年前。陳玉堂云1850年前在世。鄭方澤云生卒年不詳）。關於文康的家世，孫楷第參考、修改李玄伯（李宗桐，曾任北京師範大學講師）考證的世系表如下：

	英惠	文厚
	英德	文康
	??	文俊
	英綬	
温福	勒保	英奎
		英秀
		??
		??
		??

根據《清史稿》記載，文康曾祖温福曾任工部尚書、后戰死於征金川之役，清廷賞伯爵。祖父勒保曾任武英殿大學士，經略大臣，節制五省軍務，封侯爵。父親英福任職無記載。文康本人曾出資捐納理藩院員外郎，后升任郎中，曾經參與修纂“理藩院則例”。后任直隸天津兵備道、安徽鳳陽通判等。曾授駐藏大臣，但是沒有成行。因此可以說文康的家族是官宦世家。但是

從此簡單的世系情況看，從溫福的顯赫封爵，到文康的捐官降職，家族已呈逐漸衰落之勢。及至文康本人，晚年“諸子不肖，家道中落，先世遺物，斥賣略盡”，以至“重遭窮餓”，其境況可知。無奈只能殘燈秃筆著書以“自遣”，書名《兒女英雄傳》。

《兒女英雄傳》又名《兒女英雄評話》、《金玉緣》、《日下舊聞》、《俠女奇緣》、《正眼法藏五十三參》。本書《序》作者馬從善是文康的學生，又“館於先生家最久”云“書中所指，皆有其人。”孫慨第考《兒女英雄傳》中所述人物皆有所本，不贅。

《兒女英雄傳》有馬從善《序》一篇。

全文錄后：

《序》

《兒女英雄傳》一書，文鐵仙先生康所作也。

先生為故大學士勒文襄公保次孫，以貲為理藩院郎中，出為郡守，洊擢觀察，丁憂旋里，特起為駐藏大臣，以疾不果行，遂卒於家。

先生少席家世余蔭，門第之盛，無有倫比。晚年諸子不肖，家道中落，先時遺物，斥賣略盡。先生塊處一室，筆墨之外無長物，故著此書以自遣。其書雖托於稗官家言，而國家典故，先世舊聞，往往而在。且先生一身親歷乎盛衰升降之際，故於世運變遷，人情之反復，三致意焉。先生怠悔其以往之過，而書其未遂之志歟？

余館於先生家最久，宦遊南北，遂不相聞。昨來都門，知先生已歸道山。訪其故宅，久已易主。先生所著，無從收拾，僅於友人處得此一編，亟付剞劂，以存先

生著作。

嗟乎！富貴不可長保。如先生者，可謂顯貴，而乃垂白之年，重遭窮餓，讀是書者，其亦當有所感也。

書故五十三回，回為一卷，蠹蝕之余，僅有四十卷可讀。其餘十三卷殘缺零落，不能綴輯，且筆墨舛陋。疑為“夫己氏”所續，故竟從刊削。

書中所指，皆有其人，余知之而不欲明言之。悉先生家世者，自為尋繹可耳。

時光緒戊寅陽月，古
遼閬圃馬從善偶述

PATRICK HANAN (韓南) “CHINESE FICTION OF THE NINETEENTH AND EARLY TWENTIETH CENTURIES” COLUMBIA UNIVERSITY PRESS, NEW YORK 2004

張 偉 函說《黑籍冤魂》『塵封的珍書異刊』天津·百花文藝出版社2004.1/2004.7第二次印刷

《最後一課》漢訊溯源 同上
關於近現代期刊版本問題的思
考 同上

黃瑞霖主編 『中國近代啟蒙思想家
嚴復誕辰150周年紀念論文集』北
京·方志出版社2003.12

漢訳アラビアン・ナイト (12)

樽本照雄

托鉢僧たちは、3人ともに王子だという。こうして托鉢僧の話がはじまる。(托鉢僧に先立ち、荷担ぎ人の告白がある。最初の托鉢僧の語りのはじまるまでに、つなぎの文章83文字があるが、単行本化にさいして削除されている)

5-12 嚙稜達紀 其一(生壙記) The History of the First Calender 最初の托鉢僧の話

シャーラザッドが王に語っている物語

ここでは、美人3姉妹の話だが、そのなかでさらに登場人物のひとりが自らの体験を話しはじめる。物語のなかで別の物語が展開していくというアラビアン・ナイトの特徴のひとつである。

なぜ右眼を失い、托鉢僧になったのか。その書き出しは、こうだ。

【繡像小説】嚙稜達曰。請為夫人述余所以眇右目及為嚙稜達之故。余本一王子也。(托鉢僧が言いますのには、私が右眼を

失い托鉢僧になった理由を夫人にお話ししましょう。私は、もともとある王子なのです) 8丁オ

【説部叢書】第一嚙稜達曰。請為夫人。述予眇目之故。予王子也。(最初の托鉢僧が言いますのには、私が眼を失った理由を夫人にお話ししましょう。私は、王子なのです) 55頁

単行本にするにあたって、いくらか簡略化している。さて、英文原作を見てみると、すこし表現の違うものがある。

【タウンゼンド】Madam, I am the son of a sultan. (夫人よ、私は王の息子です) 51頁

【サグデン】IN order to inform you, madam, how I lost my right eye, and the reason that I have been obliged to take the habit of a calender, I must begin by telling you that I am the son of a king. (夫人よ、なぜ私が右眼を失い、托鉢僧にならざるをえなかったのかの理由をお話するためには、まず、私が王の息子であることから始めなければなりません) 69頁

2種類の英訳を見れば、漢訳の書き出しは、サグデン版によっていることがわかる。

タウンゼンド版では、最初の托鉢僧の話は、英文原作でわずかに約2頁しかない。漢訳では、約6頁もある。それには理由がある。英文原作には、ある部分を削除するものと削除しないものがあるか

らだ。

語り手である王子は、ある期間、たびたび叔父王のもとを訪れていた。ある時、叔父王の息子、すなわち王子の従弟は、埋葬所を建築したとあって、王子の知らない女性とふたりで中に入っていった。不思議な出来事で、本当にあったとも思われない。王子が帰国してみると、なんと彼の父は死亡し、かわりに大臣が君主となっている。王子が子供のころ、誤って弓矢でその大臣の右眼を傷つけていた。その復讐で、王子は右眼をえぐりだされる。そればかりか殺されそうになるが、歎願して助かり、命からがら叔父王のもとに身を潜めた。叔父王は、息子が死んだうえに兄王を失い、悲しんだ。それを見て、王子は、息子さんは死んだとは限らない、と説明しないわけにはいかない。事のでんまつを話す。埋葬所に案内して入ってみれば、従弟と女が炭状態で死んでいた。異常に怒る叔父王の説明によると、従弟は、その姉と近親相姦を行っていたという。

タウンゼンド版は、近親相姦については、完全に削除する。ゆえに、托鉢僧が片目を失ったのは、大臣の復讐であったと述べるだけだ。これが、ページ数が少なくなった理由である。

それでは、サグデン版は、あからさまに描写しているかという、こちらも、ごまかす。つまり、従弟と一緒に埋葬所に入っていた女性が誰であるか、説明しない。ゆえに、叔父王が、炭化した息子の死体を痛めつけて怒りを露にしている

部分は、削除する。

漢訳は、ここでも井上勤訳と大体が一致する(くりかえし記号は、ひらがなに置き換える)。

【井上勤】我が子如何なる因果にや幼稚き頃及より妹を深く愛しみ妹も亦た兄を慕ふて互に親愛の情を蓄はへ成長るに従がひてますます交情の密なるを我は友愛の情深き末頼母しきものなりと思ひて少しも干渉せず、結句喜び居たりしに、豈料らんや此の兄妹は早晚禽獣の行為ありと薄々噂の立たれば……344頁

【繡像小説】是兒幼年。夙与其姉相愛好。爾時余亦贊勉之。此家庭恒事。無足怪者。豈知數年以來。二人情日密。致有醜行。……(この子は幼年よりその姉と仲がよく、そのころはわしもそれをほめていた。家庭では普通のこと、怪しむことではない。ところが、数年来、二人の情愛は日に濃くなり、ついには恥ずべき行為をもってしまった。……)9丁ウ

井上訳と漢訳とでは、妹と姉の違いがある。だが、原文が sister だとすれば、それが姉か妹か判断がつかない。

露骨なバートン版あるいはマルドリユス版には、当然、同様の記述がある。青少年に悪い箇所は削除したといわれるレイン版でも、削除はしていない。ただし、「乳姉妹 foster-sister」にして表現をいくぶんか軽減?している違いはある。

まったくの毒抜きにするタウンゼンド版、サグデン版だから、近親相姦などと

んでもないことになるう。

「説部叢書」版でも、中華民国になって出版された単行本にも、この部分については、削除はない。当時、周作人が「アラビアン・ナイト」のなかの1篇を漢訳しており、その中で、周作人は、物語のなかの結婚について勝手な変更を実行している。当時の中国で信じられていた教えに背くものだという判断があったらしい。

だが、奚若には、そのような判断はなかったとみえる。ここでは、『繡像小説』の漢訳には、近親相姦が削除なく出現していることを指摘するにとどめておく。

さて、ここでも、漢訳が拠った英文原作、すなわち底本問題が持ち上がる。漢訳の底本は、どの版本なのか。タウンゼンド版、サグデン版ではなく、かといってレイン版でもない。レイン版は、上記の引用部分のようではないし、だいたい、レイン版では、托鉢僧たちは左眼を失っている。漢訳、タウンゼンド版、サグデン版は、みな、右眼なのだ。

王子を追って大臣の軍隊がおしよせてくる。目をくらませるためにヒゲ、眉を剃り落し、托鉢僧に身をやつして逃げてきた。

以上が、最初の托鉢僧の話だ。近親相姦という衝撃的な話題をあつかっているところにこの物語の特徴がある。その衝撃度の強さは、ふたつの英文原本が該当部分を削除しているところで見ることができよう。

5-13 噶稜達紀 其二(樵遇) The History of the Second Calender 2番目の托鉢僧の話

2番目の托鉢僧の話が、これまた長い。シャーラザッドが語る話のなかで、登場人物の托鉢僧が話す。さらに別の人物が出てきて自分の物語を語るのだから、長くならざるをえない。

2番目の托鉢僧も、王子であった。幼少のころから賢くしかも勉強好きで有名になった王子は、噂を聞いたインドの王からぜひとも顔を見たいからと招待された。

タウンゼンド版は、あっさりとそのまま王子はインドへと旅立たせている。一方、サグデン版では、インド王に招待された荣誉だの、幼くして外国へ行くことの利益だのと説明がつづく。

漢訳は、タウンゼンド版ほど簡略化していない。これが、奚若が、サグデン版にもとづいて翻訳を行なっていると考えられる理由である。

1ヵ月ばかり旅を続けていたところに山賊50名 fifty horsemen に襲われた。なぜだか『繡像小説』の漢訳は「四十人」とし、「説部叢書」版は「数十人」に変更している。

山賊の襲撃をなんとか切り抜けた王子は、ある町にたどりつき仕立屋にかくまってもらうことになった。薪拾いを仕事にして1年がすぎたころのことだ。山の中で鉄の環を見つけた。それは地下宮殿に通じており、豪華な部屋にはひとりの美人が25年間も閉じ込められたままだと

いう。美女は、エボニー島 (Ebony Isle 安暴南島) の国王エピティマラス (Eptimarus 愛匹鉄買勒司) の娘であった (タウンゼンド版は、Ebony Island というだけで、国王の名前をださない。56頁)。婚礼の直前に魔神にさらわれ、その時以来この地下宮殿に幽閉されている。10日ごとに現われる魔神であるから、その1日を魔神とすごし、残りの9日は木こりと過ごしたいという美女である。生意気ざかりのことで木こりは、魔神など退治してくれる、と挑発する。しかし、実際に魔神が出現すると、あまりの怖さに逃げ出したのが木こり、すなわち王子 = 2番目の托鉢僧である。

その魔神は自ら称して「エブリスの娘の息子、魔神の王 a son of the daughter of Eblis, prince of the genii」(82頁) といった。タウンゼンド版は、「エブリスの孫、魔神の王 a grandson of Eblis, prince of genies」(57頁) と書いていて、表現は異なるが意味は同じようだ。

漢訳は、その部分を「わしはジニー魔王、エブリス (悪鬼の名) の甥である。余乃琴李魔王曷勃累司 (悪鬼名) 甥也」(14丁オ) とする。「甥」がおかしい。また、「琴李」と音訳したのは“the genii”を固有名詞だと誤解したのではないか。ありえない誤解だとは思うのだが。

魔神によって地下宮殿にふたたび連れもどされた木こりの前には、痛めつけられた美女がいる。魔神は、木こりのことを知らないならば彼の首を切るように命令し、美女が断わると、木こりに向かって、美女の首を切るように命じる。木こ

りも魔神の命令を断わる。

魔神は、剣で美女の片腕を斬り落すと、美女は絶命してしまった (引刀斬公主。折其一手。血殷然出。傷痕盡裂。一痛而絶) 15才。

この部分は、サグデン版には、存在しない。美女の片腕が斬り落とされるという残酷場面は、児童少年には刺激が強すぎるという判断なのであろう。

タウンゼンド版には、似た内容のものがある。片腕を斬り落された美女は、死んでしまう (58頁)。

それでは、レイン版ではどうなっているかと思えば、こちらは、もっと残酷だ。美女の片腕どころか、残りの腕、右足、さらに左足を切り離している (147頁)。なんと恐ろしいことだ。 ☒

清末小説から

葛 桂録 迭更斯：一個“聖誕老人”的中國之行 『他者的眼光 中英文學關係論稿』銀川・寧夏人民教育出版社2003.12

謝天振、查明建主編 『中國現代翻譯文學史 (1898-1949)』上海外語教育出版社2004.9

劉 德枢 劉鶚倡修津鎮鐵路始末 『文史雜誌』2005年第1期 (總第115期)

楊 国明 『晚清小説与社会經濟轉型』上海・東方出版中心2005.1

松村茂樹 (書評) 樽本照雄 『初期商務

印書館研究増補版』読後私感
『中国近現代文化研究』第7号
2004.12.25
利波雄一 (書評) 樽本照雄『清末小説
叢考』をめぐって『大阪経大論集』
第55巻第5号(通巻第283号) 20
05.1.7
ルドルフ・G・ワーグナー(RUDOLF G.
WAGNER)著、土屋礼子訳 清末上海に
おける中国語新聞創刊と古代中
国の聖賢たち『インテリジェン

ス』第5号2005.1.17
キャサリン・V・イエ(葉凱蒂)著、川
崎賢子訳 大衆娯楽の創世 1910年代
民国初期におけるメディアとス
ター俳優の台頭『インテリジェ
ンス』第5号2005.1.17
神谷まり子 都市訪問者の上海遊興物語
社会小説『海上繁華夢』に
ついて 『野草』第75号2005.
2.1

樽本照雄編

清末小説研究資料叢書 8

清末小説研究ガイド2005

B5判 135頁 限定200部 定価: 3,150円

清末小説は、清朝末期の約10年間に発表されたものにすぎません。当時、中国社会は変革の時期をむかえていました。政情の不安定、外国文学との接触、近代的印刷技術の導入、出版社の増大などにもない、それまでになかった新しい文学が誕生したのです。小説雑誌の発生は、その変革を象徴するものです。小説をとりまく環境が大きく変わっているのですから、研究も多方面にわたります。

本書は、清末小説を研究しようと考えている人のための文献ガイドブックです。

第1部では、研究論文が成立するための必要条件について説明しています。

論文の必要条件といってもむづかしいことはありません。新しい発見があるかどうか、これだけのことです。しかし、この簡単なことを、いざ自分が実行するとなると話は別になります。新しい発見にたどりつくまで、なにをやればいいのか。実例をあげながら解説しました。

第2部に、研究するときに参考になる文献を紹介しています。

事典、文学史、伝記、研究叢書、作品叢書、蔵書目録、総目録、新聞雑誌、翻訳関係、出版関係、筆名録、年表そのほか、役立ちそうな書籍をできるだけ多く収録しました。約1千件を数えます。

作品叢書に収録された作家の索引をつくりました。とりあえず作品を読みたいとき、手がかりになるでしょう。また、文献索引によってガイドにかかげた書籍の全体を見渡すことができます。

清末小説研究会